

# やまと通信

やまと石材がお届けする、手作り新聞

vol.183  
2021.6

〔特集〕 お墓づくりの素朴なギモン

**お墓の魂入れ(開眼供養)ってどうやるの??** · 1・2ページ

仏像・あれこれシリーズ「へえ～そうなんだ!」

**私たちに身近な「天部」って?** ······ 3ページ

あっ!これ見たことある!青森市浜田・中央公園

**「大きな魚の口と湧水？」** ······ 4ページ

青森市・青龍寺様

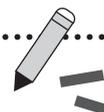
**「安全祈願祭」に参加いたしました** ······ 5ページ

**お客様の声** ······ 6ページ

**「大切な人に贈りたい」語りつがれる絵本  
良きご縁をありがとうございます** ······ 7ページ



## 「梅雨の季節は気分を変えて…」



季節をあらわす言葉はたくさんありますが、6月の「梅雨入り」は誰もが知っているのではないのでしょうか。これは、春の終わりを告げるとともに夏の始まり(初夏)とされているようです。逆に梅雨が明けると盛夏がやってきます。

ジメジメ・ジトジトも困りますが、こんな時は気分を変えて、この季節ならではの俳句なんかを楽しんでみるのも良いかもしれませんね。

【特集】お墓づくりの素朴なギモン

# お墓の魂入れ(開眼供養) ってどうやるの??



弘前店営業部 伊藤杏美

こんにちは。弘前店の伊藤です。

6月に入り今年も半分の月日が過ぎ去ろうとしております。季節も移り変わって、これからどんどん暑くなっていくんでしょうね。体調管理には気をつけたいと思います。

さて今回の特集は、お墓が完成した後に行う「魂入れ(開眼供養)」についてお話ししたいと思います。

## なんで魂入れをやるの？

お墓の建立と言えば、初めて建てられる方もいれば、ご先祖様から受け継いだ古いお墓の建て直しを・・・という方もいらっしゃいます。それぞれに深い思い入れがあるかと思いますが、そのお墓が完成した後には、ほとんどの方が魂入れ(開眼供養、性根入れ)を行います。ちなみに、浄土真宗(門徒宗)の方は魂入れとは言わず、「建碑式」という呼び方をしています。

さてこの魂入れ。なぜやるのかと言いますと、お墓は完成した後はまだ普通の石です。その石に和尚様が魂を宿らせ、初めて「お墓」としての体をなす、と言う訳です。

なんとなく納得しちゃいますよね。

## 段取りはどうすればいいの？

でも皆さん。魂入れって言葉は知っていても、「いったい何をどうすればいいの?」という方がほとんどだと思います。

そこで、少し順を追って説明したいと思います。

まずは、お墓が完成したらご家族、またはご親戚の方などの日程(皆さんが集まれる日時)の確認をします。

次にその日程と、菩提寺の住職様のご都合を確認し、日時を確定してください。

お盆が近くなると和尚様も忙しくなるので、早めの調整が必要です。



魂入れで準備するものは、宗派またはお寺さんによって違いがありますので、あらかじめ確認をしておけば安心ですね。

私たちやまと石材では、事前に日時をご連絡いただければ、お墓のお掃除も兼ねて、スタッフが納骨のお手伝いもさせていただきます。不安に感じている初めての方には非常に喜ばれております。

いよいよ魂入れ本番です。一番多い流れとしては、まず納骨を済ませ、その後持参した七草やお供物などを並べていきます。準備が整いましたら、いよいよご住職様の読経が始まります。時間は、トータルで30分くらいでしょうか。イスなどをご準備される方もいらっしゃるようですね。

服装はやはり、初めての仏様の場合は、喪服で参列される方が多いですね。古いお墓の建て替えや、寿陵のお墓（まだ仏様がいらっしゃらない方のお墓）の場合は、華美にならない程度の普段着がほとんどです。



事前にスタッフが掃除を済ませ、皆様をお待ちします。



いよいよ納骨です。慎重に、慎重に。



厳かな雰囲気の中、住職の読経が始まります。

## …それでも不安に思ったら…

色々わからないことが多いこの魂入れですが、これはご年配の方でも不安に感じてる方が多いようです。そうですね、全てが初めてのことから・・・。  
でも大丈夫！わからないことは私たちやまと石材スタッフに何でもお尋ねください。

仏像・あれこれシリーズ

# 「へえ～ そうなんだ！」

こちらのコーナーでは、知っているようで知らない「仏像」のあれこれをお届けしていきたいと思います。・・・きっと誰かに教えたくなる・・・!?



青森店営業部 宮崎 陽

## 私たちに身近な「天部」って?

今回は、仏(仏像)の位の一つである天部(てんぶ)について調べてみました。

「えっ!?天部?なんだそれ??」・・・

そうなんです。仏様と聞いて“如来”、“菩薩”、“明王”は思い浮かぶのですが私も最初は「天部?・・・何?」という感じでした(恥)

ウィキペディアによりますと、天部というのは「天界に住む者の総称」と記されております。実際に仏様の代表的な名称で挙げてみると帝釈天、大黒天、毘沙門天、韋駄天などなど・・・。いかがでしょうか「あぁ～なるほど!」と思っていただけたのではないのでしょうか。

そしてこの天部の仏様には役割がありまして、仏法の守護神・福德神という意味合いが非常に色濃く出ているようです。

例えば

帝釈天・・・縁結び

大黒天・・・五穀豊穡

韋駄天・・・盗難・火難除け、身体健全



大黒天



毘沙門天

というように、私たちの暮らしの中でより身近にいらっしゃる仏様というイメージがあるかと思われま。如来様は近寄りやすいけど、天部の仏様はちょっと声をかけたくなくなってしまいます・・・私だけ?

天狗で有名な京都の鞍馬寺では、観音様と並び数多くの毘沙門天の仏像があります。これは毘沙門天(多聞天)が、北方を守護する仏様で、鞍馬寺がちょうど都の北に位置していたからだそうです。

## 天部のおまけをもうひとつ

天部の仏の中には天がついていない仏様もいらっしゃいます。その中で有名なのが「鬼子母神(きしもじん/きしぼじん)」です。

鬼子母神は安産や子育て、病を治すご利益があるとして有名ですが、元々は人の子をさらって食べていた鬼ということでした・・・おそろしや～。

しかし、その鬼をお釈迦様が改心させ良い神となりました。鬼にはツノがありますが、良い鬼である鬼子母神にはツノがありません。よって本来は「鬼」の字からツノを取り **鬼子母神**と書くのが正しいそうです。



あっ！これ見たことある！

青森市浜田・中央公園

# 「大きな魚の口と湧水？」



青森店業務課 大澤 隆則

みなさんは行かれたことはおありでしょうか？

青森中央インターの近隣に、とても広々とした憩いの場があります。そこにとてもユニーク？な、あるものを設置しました。それは・・・

石で出来た「大きな魚の口と噴水石」です。水量が多い時には、せせらぎプールを流れ、魚の口に吸い込まれて循環するようになっております。とても愛嬌のある目もポイントのひとつでしょうか。

また、あたかも自然石から水が湧き出るように見せているのが噴水石です。湧き出た水を見ていると、何となく心が静まります。石と水って、やはり何かのパワーがあるんでしょうね。



「水が流れ込む大きな魚の口」

噴水口から流れ出た水を集める位置にあるモニュメント。周辺のゆるやかなカーブの段差も波をイメージさせてくれます。



「水が湧き出る自然石」

秋田県産の男鹿石を3つ組合わせて作られています。遠くから見ると1個の石のようにも・・・設置するには、とても繊細で熟練した技が必要です。

去年、今年とコロナ禍でなかなか外出もできず「おうち時間」が増えていると思います。思いっきり両手を伸ばして、外の空気を胸いっぱい吸い込みたいですね。そんな時浜田の中央公園を訪れてみるのもいいかもしれません。魚の口の前で写真を一枚、というのもお勧めですよ。

青森市・青龍寺様

# 「安全祈願祭」に参加いたしました



弘前店営業部 三浦 淳

こんにちは。弘前店の三浦です。

春の風が吹き抜け、桜の季節を迎えようとする4月の中旬、青森市にあります青龍寺様において、毎年恒例の「安全祈願祭」を執り行いました。雪が解けて、これから私たちの仕事も本番に向けてスタートを切る時期でもあります。私たちに託していただいたお客様、そしてやまと石材社員の安全を祈願する、大切な行事でもあります。

実は本来であれば社員全員がこれに参加するわけですが、今はコロナ禍でそれもありません（一昨年までは全員参加でした）。去年、今年とわずか数名での参加です。何となく淋しいですね。

しかし、青龍寺様のご住職は人数にはとらわれず、しっかりと祈祷してくださいました。祈祷の最中に打たれる和太鼓の音も、いつも以上に響き渡り私の心を打ち抜きます。

社員全員の代表として参加させて頂いているわけですから、祈祷に於いては自分のことのみならず、社員の安全とおお客様の安全を祈願させていただきました。

帰るころには、頭も心もスッキリと晴れやかな気分になることが出来ました。青龍寺様からは心づくしのお守りを社員全員分頂き、本当に感謝にたえません。ありがとうございました。

さあ！これからが本番です！やまと石材一丸となって、よりよいお墓づくりを目指してまいります。どうぞよろしくお願い致します。



私を含めてわずか4名の参加ですが、心の中には社員全員の思いが詰まっております。



「今年も安全にお墓づくりが出来ますように…」心を込めて祈願いたしました。

お客様の声

やまと石材に大切なお墓づくりを託していただいたお客様からのおたよりです。本当にありがとうございました。

# 的を得たラインナップで、 選びやすかったです

東京都・T様

仏壇購入に色々なお店に行きましても、展示されているお仏壇の数、種類、価格もまちまちで又変遷、しては、偶然ネットがやまと石材さんに出会い、のぞいてみても、種類が多すぎて、少しおぼろな種類の多さではなく、各サンプルに的を得たラインナップで、とても選びやすく、仏壇の価格が掲載されていることにも安心感を覚え、ネットで購入するお仏壇を、決め、実際ショールームを訪ね、お礼、対応もとても気持よく、家庭内の、さまざまな事情も汲み取り、いただき、的確なアドバイスと、信頼感を、感じ、早速購入に踏み切ることにできました。その後、設置までの段取りも、敏捷で、次の日に設置場所の寸法を測りに来ていただき、取り寄りの仏壇で、1週間、次の週末には設置に来ていただき、設置も職人さんが短い時間、とても丁寧にきれいに納めてくれました。家に残るゴミも残さず、お手に、本当に感心いたしました。時間のない私でしたが、やまと石材さんの、おかげで、とても安心、日々を送るおります。



ピッタリ、スッキリ収まる作り付け仏壇です。

オーダーメイドタイプなのでご家庭の仏間に一分の狂いもなく設置でき耐震性にも優れています。和室だけではなくフローリングの部屋にも最適なウォールナット材を縦目と横目に使い分けた上品なデザインも特徴です。

## 担当者からひとこと



ショールーム課 西村 葉子

T様、この度は数ある仏壇店から当社をお選びいただきまして誠にありがとうございます。

お部屋の色合いにもピッタリ

で、ご家族様にも喜んでいただいたご様子に私も嬉しく思っています。今後とも永いお付き合いをさせていただければと存じます。



「大切な人に贈りたい」  
いつまでも語りつがれる絵本

「鈴の鳴る道」－花の詩画集－

星野富弘・作

不慮の事故で手足の自由を失った星野さんが、口に筆をくわえ書き上げた作品です。

ある日、車椅子に下げた小さな鈴がチリンと鳴りました。心にしみるような澄んだ音色でした。いつもは避けて通る道もチリンと鳴るだけで気持ちが和んで…。人生のでこぼこにさしかかった時、星野さんの絵や詩が小さな鈴のように心にしみてくるそんな作品ではないでしょうか。

以前、この本を出版された会社の方の話を聞いたことがあります。「古典の児童文学は大手の出版社にはかないません。そこで我が社は会社の財産になるような本を作ることになりました」そのような本の中に「鈴の鳴る道」はありました。一冊一冊手間暇をかけ丁寧に作られた本。「鈴の鳴る道」はいまだに多くの人々に愛され続けています。



ショールーム課・佐藤江里子  
絵本の読み聞かせボランティア  
を続けて10数年。心に響く素敵な絵本  
を少しでも紹介できれば幸いです。



良きご縁をありがとうございます

- 弘前市松森町
- 青森市西滝
- 十和田市奥瀬
- 青森市小柳
- 青森市小柳
- 青森市西滝
- 上北郡横浜町
- 弘前市城南
- 弘前市紙漕沢
- 青森市安田
- むつ市川内町
- 弘前市広野
- 福島県福島市泉
- 青森市赤坂
- 弘前市城東
- 弘前市津賀野
- 青森市油川
- 弘前市青樹町
- 青森市浜田
- 黒石市美原町
- 青森市野内
- 弘前市栄町
- 弘前市青女子
- 青森市幸畑
- 黒石市境松

- 成田様
- 夏堀様
- 杉村様
- 川岸様
- 大室様
- 島山様
- 杉山様
- 相馬様
- 下山様
- 其田様
- 工藤様
- 小笠原様
- 清原様
- 葛西様
- 上村様
- 佐藤様
- 山本様
- 桑田様
- 山田様
- 千葉様
- 中畑様
- 杉山様
- 館山様
- 後藤様
- 山内様

※今月号で紹介しきれなかったお客様は、また次の機会に掲載いたします。

ご意見・ご感想・質問どんなことでもお便り下さい。

Landwork 日本最大36店舗の  
墓石専門店グループ



【青森本店】〒030-0946 青森市古館1-13-13  
TEL. 017-744-1488 FAX. 017-765-1388

【弘前店】〒036-8076 弘前市境関1-1-1  
TEL. 0172-27-1455 FAX. 0172-27-1492

E-mail info@yamatosekizai.com 青森 やまと石材

〒036-8076  
弘前市境関1-1-1  
(株)やまと石材(弘前店)  
やまと通信係

〒030-0946  
青森市古館1-13-13  
(株)やまと石材(青森本店)  
やまと通信係

編集後記

今年は全国的に梅雨入りが早まっているようです。その分ジメジメが長く続くのでしょうか。気持ちだけでもカラッと爽やかに梅雨を乗り切りたいと思います。皆様もお身体にはお気をつけてお過ごしください。(佐々木)